



RESEARCH REPORT

調査報告書

2026

発達障がい児の二次障害に 関する調査

一般社団法人 人間力認定協会

RESEARCH REPORT

調査報告書

2026.2.1



CONTENTS

～発達障がい児の二次障害に関する調査～

はじめに 専門チーム代表の挨拶	P2
1章 調査に至った背景	P3
2章 発達障がい児の二次障害に関するアンケート調査	P5
3章 調査結果の総括と考察	P15
4章 アンケート自由記述のご紹介	P17

TOPICS

- ・先生の「叱責」が引き金 約5割が教師の不適切対応を指摘
- ・不登校は「心のSOS」 約6割の内在化障害が深刻なサイン
- ・「気づきの遅れ」を後悔 3割超がサインの早期理解を重視
- ・家庭と学校の連携が鍵 3割が「早期相談」の必要性を痛感

はじめに 専門チーム代表の挨拶

この度、一般社団法人 人間力認定協会は、CSR 活動の一環として「発達障害調査研究チーム」を発足いたしました。本報告書を皆様にお届けできますことを、チーム一同、大変光栄に思います。

私たちの理念『発達障害を「障害」としない社会』を実現するためには、一人ひとりの発達障害に対する正しい理解が不可欠です。発達障害への関心が高まる一方、根強い誤解や偏見により、当事者やご家族が生きづらさを抱えています。私たちは、正しい知識と理解を社会に広めることでこの現状を改善すべく、本チームを立ち上げました。

本チームは、発達障害の特性や可能性を引き出す支援のあり方を多角的に調査・研究します。最大の強みは、これまでに3万名を超える皆様が学ばれた、当協会認定「児童発達支援士」の皆様との広範なネットワークです。日々子どもたちと真剣に向き合う受講生や関連団体の皆様から寄せられる「現

場の生の声（一次情報）」は、何物にも代えがたい貴重なデータとなります。

皆様からいただいた実践的な知見を丁寧に分析し、信頼性の高い情報として社会に発信することで、本報告書が支援現場の指針やご家庭でのヒント、さらには教育・福祉における政策提言の礎となることを目指します。

この一歩が、発達障害のある方一人ひとりがその個性をもって輝き、誰もが支え合い成長できる社会の実現に繋がるものと確信しております。

本調査研究にご協力いただく皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人 人間力認定協会
発達障害調査研究チーム
代表 望月 宏彰

1 章 調査に至った背景

近年、発達障害に関する社会的認知は急速に広まり、早期発見や早期療育の重要性が広く共有されるようになりました。しかし、診断を受け特性に応じた配慮や支援が検討される一方で、現場では依然として様々な課題が残されています。その一つに、発達障がい児の「二次障害」の問題があります。

当協会が認定している「児童発達支援士」資格の受講者や、日々子どもたちと向き合う教育・保育関係者、そして保護者の方々からは、二次障害に関する相談が多く寄せられるようになりました。「子どもが急に学校に行けなくなった」「家庭内での激しい癇癪や攻撃性が増している」「何をしても自信が持てず、ふさぎ込んでしまう」といった切実な声は、単なる発達の特性への悩みを超え、二次障害がいかに深刻な影響を及ぼしているかを物語っています。

発達障害と二次障害は「切っても切れない関係」にあります。発達障害は生まれ持った脳の特性であり、生涯を通じて向き合い共生していく個性の一部とも言えます。しかし、その特性が周囲の環境や人間関係と適合せず、適切な理解や支援が得られない状況が続くと、子どもは日常的に「失敗体験」を積み重ねることになります。努力しても報われない、周囲から叱責を受け続ける、

あるいは孤立するといった経験が、強いストレスや自己肯定感の著しい低下を招きます。その結果として、うつ病や不安障害、不登校、引きこもり、自傷行為、あるいは反抗挑戦性障害といった、後天的な症状である二次障害が引き起こされるのです。

これまでの支援の現場を振り返ると、発達障害への直接的なアプローチ、すなわち「特性をどうカバーするか」という視点は重視されてきました。しかし、二次障害が発生してからの対応は、本人にとっても支援者にとっても非常に困難を極めます。一度深く傷ついた自己肯定感を取り戻し、社会との繋がりを再構築するには、膨大な時間と多大なエネルギーを要します。中には、深刻な精神的苦痛に耐えかね、自死という最悪の結末を選んでしまうケースも報告されています。このような悲劇を未然に防ぐことは、子どもたちの命と未来を守る上で、何よりも優先されるべき最重要課題であると言えます。

二次障害は、決して「避けられない運命」ではありません。適切な時期に、適切な環境調整と心理的ケアが行われれば、その発生を抑制し、あるいは軽微な段階で食い止めることが可能です。そのためには、どのような「きっかけ」が二次障害の引き金に

なりやすいのか、また、どのような「兆候」が二次障害のサインとして現れるのかを、具体的なデータとして蓄積し、共有していく必要があります。

例えば、睡眠リズムの乱れ、食欲の変化、好んでいた遊びへの関心の低下、あるいは些細なことでの過剰な反応といった小さな変化は、子どもが発している SOS である可能性があります。これらの兆候を見逃さず、周囲の大人が適切に介入することができれば、事態が深刻化する前に対策を講じることができるはずです。

今回の「発達障がい児の二次障害に関する調査」は、こうした状況を改善することを目的として計画されました。本調査では、二次障害に至った経緯や、その前兆として現れた行動、さらには発生を防ぐために有効であった支援の内容を多角的に分析いたします。現場の知見を整理し、未然に防ぐための具体的な「指針」を導き出すことは、現在苦しんでいる子どもたちだけでなく、これから生きる子どもたちにとっても大きな意義を持つものと確信しております。

子どもたちが自身の特性を抱えながらも、二次的な困難に苦しむことなく、自分らしく健やかに成長できる社会を実現するために、本調査を通じて二次障害への理解を深め、予防的な支援のあり方を広く社会に提言してまいりたいと考えております。

2章 発達障がい児の二次障害に関する調査

調査の概要

- 【調査名称】 発達障がい児の二次障害に関する調査
- 【調査団体】 一般社団法人 人間力認定協会
- 【調査目的】 発達障がい児の二次障害に関する実態を明らかにすること
- 【調査対象】 当協会認定資格「児童発達支援士」等の受講者であり、かつ発達に特性のあるお子様を持つ保護者または、施設や学校にて支援活動をされている方
- 【調査期間】 2023年1月21日～2026年1月1日
- 【調査方法】 Web アンケートフォームによる記名式調査 ※1
- 【設問一覧】
- ①子どもの年齢
 - ②発達障害診断名
 - ③二次障害の原因として思い当たる事柄
 - ④二次障害の原因となった出来事
 - ⑤どのような二次障害が現れたか
 - ⑥二次障害になる前に「こうしておけばよかった」と思うこと
- 【回答者数】 63名

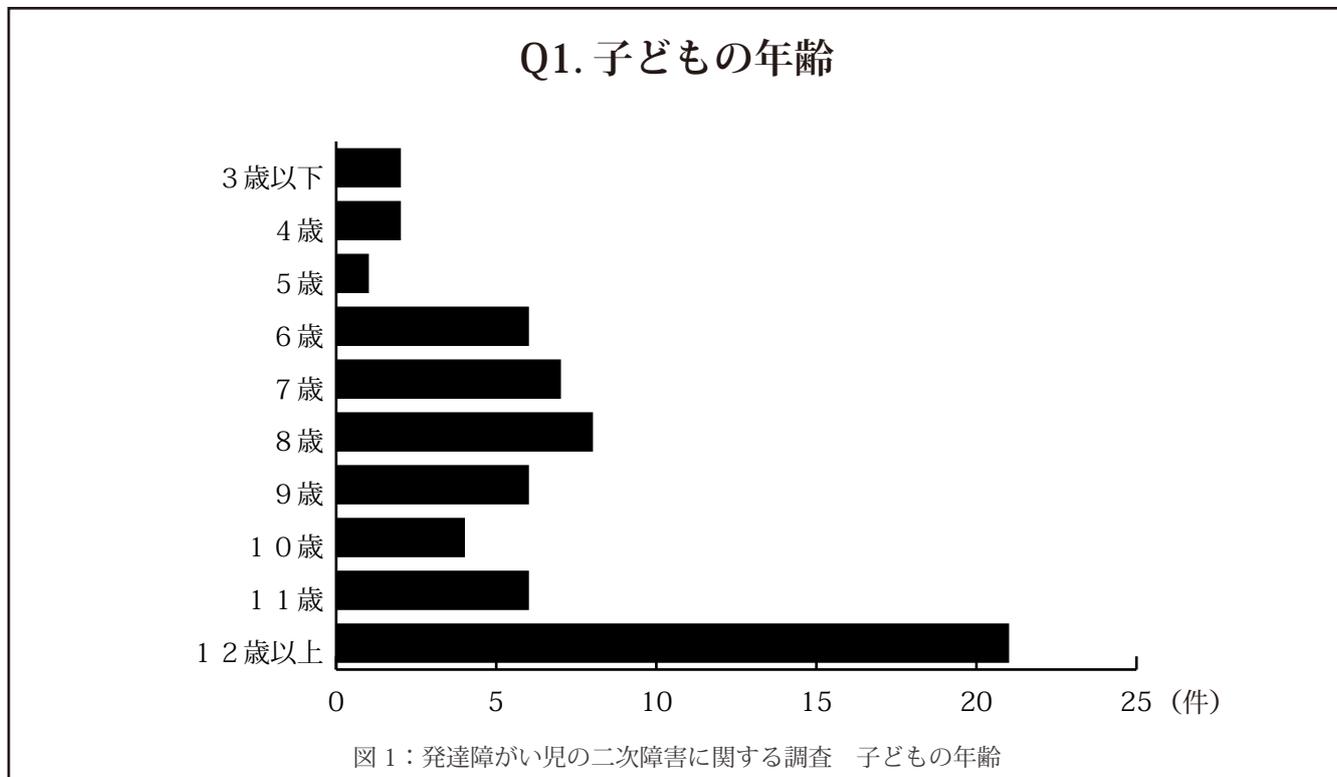
本章では、アンケート調査の集計結果を客観的なデータとして記述いたします。本章で提示する集計結果には、選択式の設問に加え、皆様から寄せられた自由記述を分析したものも含まれております。自由記述の分析にあたっては、回答者の意図を尊重しつつ、当協会にて内容を精査し、共通するテーマごとにカテゴリー分類を行いました。そのためこれらのデータは、回答者が抱える悩みや意見の全体的な「傾向」を把握するための参考資料としてご覧いただけますと幸いです。

本報告書では、客観的な事実と私たちの見解を明確に区別してお伝えするため、集計結果に基づく私たちの総括や考察は、第3章にて詳しく述べております。また、アンケートにご協力いただいた皆様から寄せられた貴重な自由記述（一次情報）に関しましては、第4章にて原文のまま紹介しておりますので、併せてご覧ください。

※1 個人情報は、当協会のプライバシーポリシーに基づき厳重に管理し、本調査目的以外での使用は一切行いません

Q1. 子どもの年齢

回答方式：単一選択式

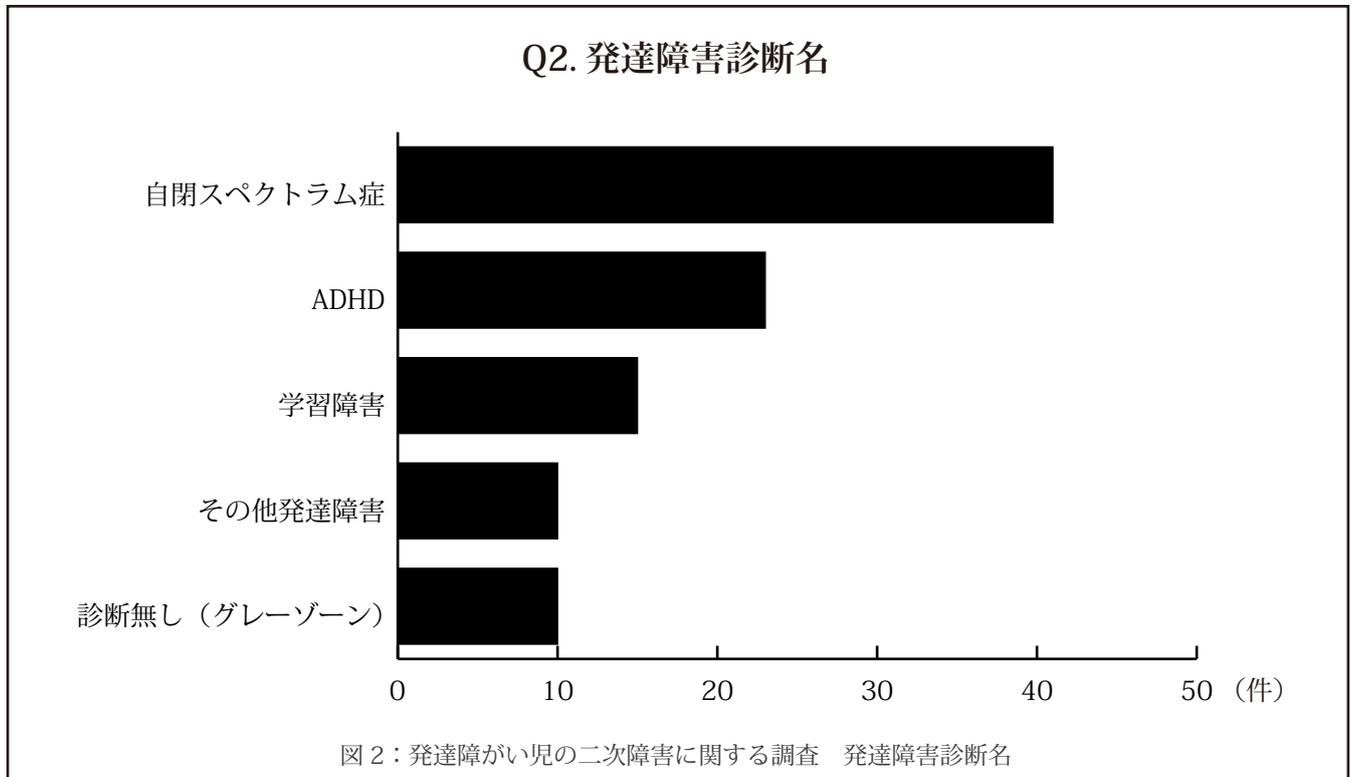


年齢	件数	割合※
3歳以下	2件	3.2%
4歳	2件	3.2%
5歳	1件	1.6%
6歳	6件	9.5%
7歳	7件	11.1%
8歳	8件	12.7%
9歳	6件	9.5%
10歳	4件	6.3%
11歳	6件	9.5%
12歳以上	21件	33.3%

※割合は有効回答数 63 件に対する百分率

Q2. 発達障害診断名

回答方式：複数選択式



診断名	件数	割合※
自閉スペクトラム症	41 件	65.1%
ADHD	23 件	36.5%
学習障害	15 件	23.8%
その他発達障害	10 件	15.9%
診断無し (グレーゾーン)	10 件	15.9%

※割合は有効回答数 63 件に対する百分率 ※有効回答数：63 件 延べ件数：99 件

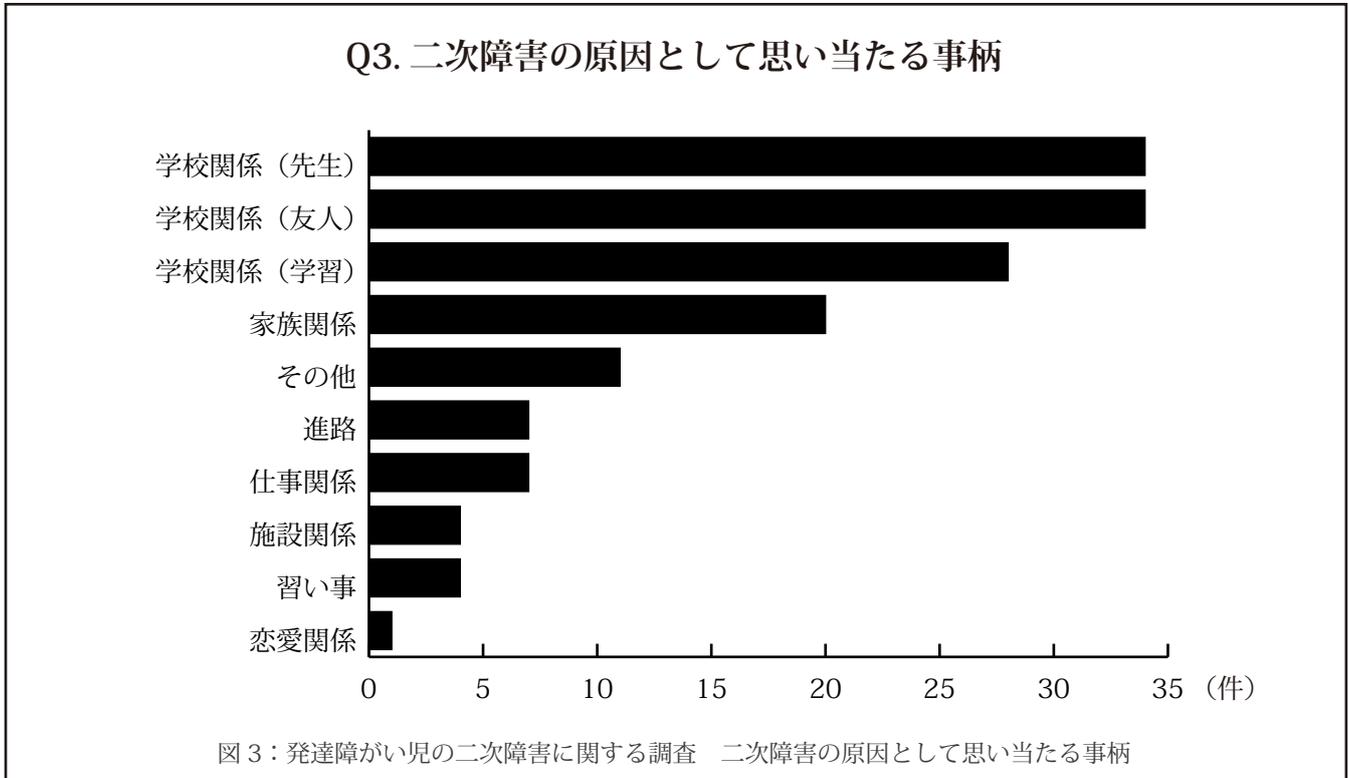
診断数	件数	割合※
1 つのみ	36 件	57.1%
2 つ	21 件	33.3%
3 つ	3 件	4.8%
4 つ以上	3 件	4.8%

※割合は有効回答数 63 件に対する百分率

最多は自閉スペクトラム症となりました。また「自閉スペクトラム症+ADHD」という組み合わせの方も多く、複数の診断が下されている方は、42.9%ということがわかりました。

Q3. 二次障害の原因として思い当たる事柄

回答方式：複数選択式



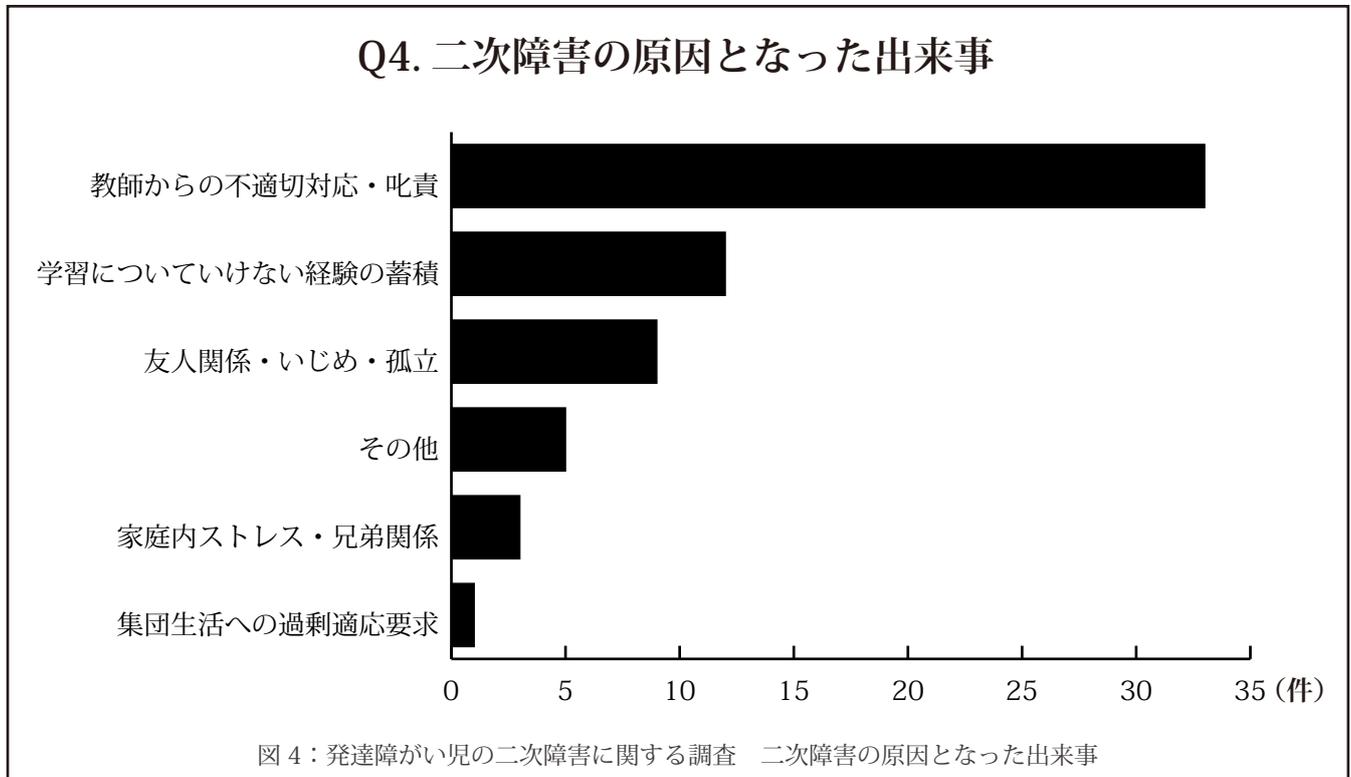
順位	事柄	件数	割合※
1	学校関係 (先生)	34 件	54.0%
2	学校関係 (友人)	34 件	54.0%
3	学校関係 (学習)	28 件	44.4%
4	家族関係	20 件	31.7%
5	その他	11 件	17.5%
6	進路	7 件	11.1%
〃	仕事関係	7 件	11.1%
8	施設関係	4 件	6.3%
〃	習い事	4 件	6.3%
10	恋愛関係	1 件	1.6%

※割合は有効回答数 63 件に対する百分率 ※有効回答数：63 件 延べ件数：150 件

学校関係の 3 つの項目が上位を占める結果となりました。また学校に関する要因が単独ではなく、複数重なっているケースが多いこともわかりました。

Q4. 二次障害の原因となった出来事

回答方式：自由記述方式



順位	カテゴリー	件数	割合※
1	教師からの不適切対応・叱責	33件	52.4%
2	学習についていけない経験の蓄積	12件	19.0%
3	友人関係・いじめ・孤立	9件	14.3%
4	その他	5件	7.9%
5	家庭内ストレス・兄弟関係	3件	4.8%
6	集団生活への過剰適応要求	1件	1.6%

※割合は有効回答数 63 件に対する百分率

二次障害に至る具体的要因として、教師からの叱責や不適切対応が最も多く、学習面や友人関係の困難が重なっているケースが多いことがわかりました。

Q4. 二次障害の原因となった出来事

～代表的な自由記述～ ※いただいた情報を原文のままご紹介しております

<教師からの不適切対応・叱責>

・もともと忘れ物が多かった息子。国語の授業で先生に教科書を貸してください。と言ったら、早く返してよ?!と言われ、返しますよ。と言ったところその言い方、気持ちが良くないから教科書返してくれる?と言われ返して、教科書が無い状態で1時間過ごしたと。泣きながら家で話してくれました。その後、息子の診断結果と共に教頭へ担任のことについて相談、抗議しましたが、学校や担任の非を認めず。もう学校はがんばらなくてもいいかな、と親も諦めました。次の学年になる時にいろいろ配慮していただき、仲良しの友達をたくさん同じクラスにしてくれたりしましたが、新しい学年の担任とも信頼関係を築くことが息子共々出来ず、今では全く登校していません。

・小学校に進学し、最初の3ヶ月は馴染もうと頑張っていました。担任の先生の指導に合わせる事ができず、夏休み明けから登校が難しくなりました。具体的には給食で苦手な物も必ず口にしないで、昼休みがない、授業の待ち時間の長さ、細かい文字指導などでした。

<学習についていけない経験の蓄積>

・学校の授業についていけず、勉強すること事態が嫌になってしまいました。また、勉強の仕方もわからない。習ったことを直ぐに忘れてしまう。

・高校になってから、授業のペースについていけず、板書も間に合わなくなり、テストで急激に点数が悪くなった。後程、ディスレクシアと診断された。

<友人関係・いじめ・孤立>

・兄がグレーゾーンで同じ小学校に通っていたが、入学早々に兄の妹だとわかるといじめに遭いました。

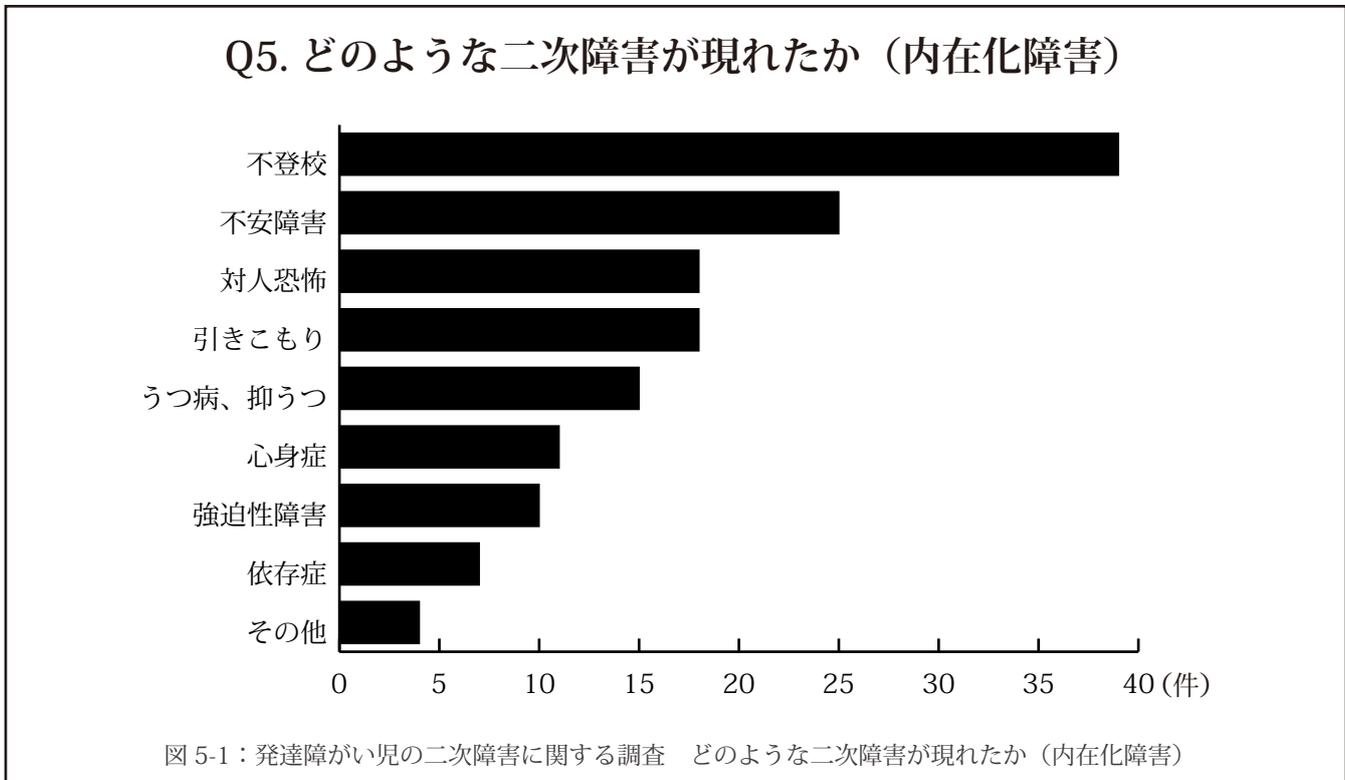
・勉強する意味が分からない。誰も話しかけてくれない。いつも1人。学校の校則が理解できない。

<家庭内ストレス・兄弟関係>

・育てにくさが発達障害ゆえんのものであるという自覚が母親の私になく、兄や姉と同じように育つはず、普通に正しく育て欲しいとこちらの関わり方が間違えていた。愛着形成がうまくいかず、本人は低学年のころから辛い思いや生きづらさを抱えていたことを高校生になってから知った。

※より詳しい体験談については、4章にて紹介しております

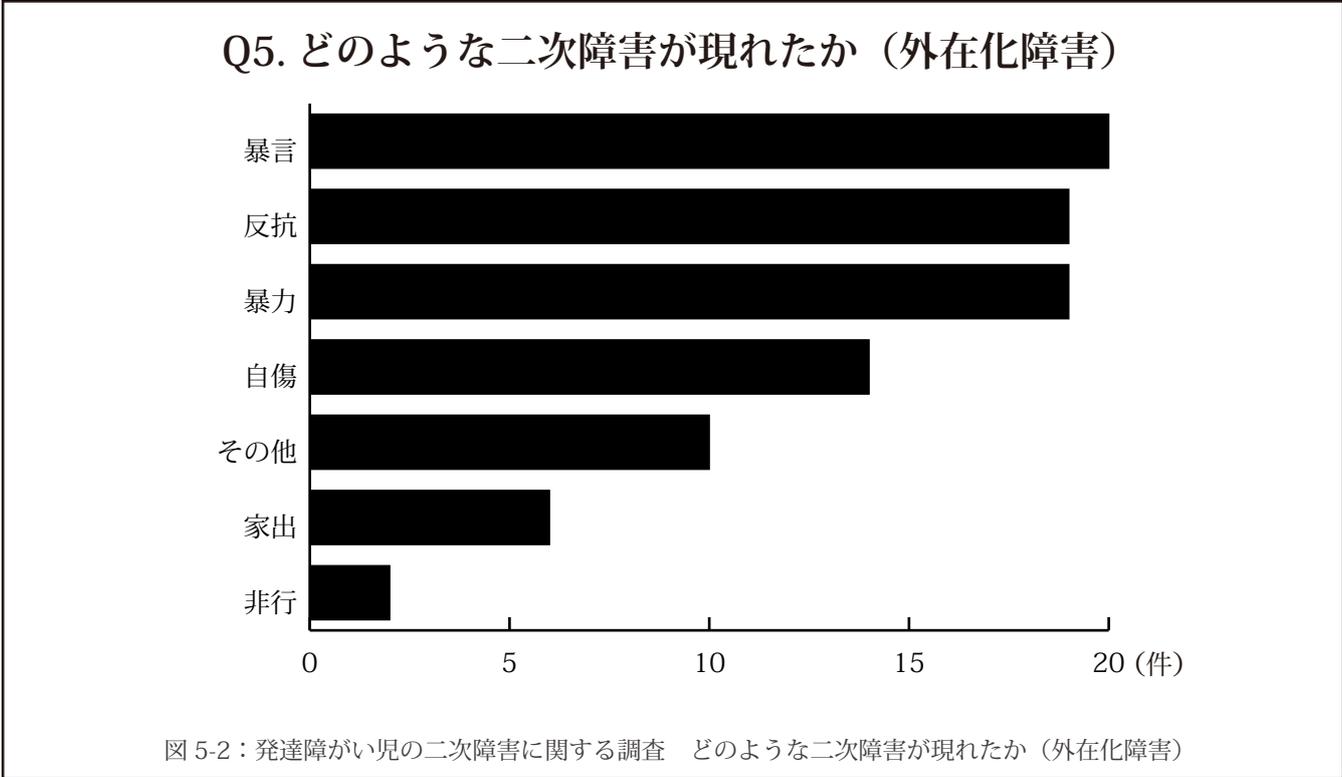
Q5. どのような二次障害が現れたか 回答方式：自由記述方式



順位	内在化障害カテゴリー	件数	割合※
1	不登校	39 件	61.9%
2	不安障害	25 件	39.7%
3	対人恐怖	18 件	28.6%
〃	引きこもり	18 件	28.6%
5	うつ病、抑うつ	15 件	23.8%
6	心身症	11 件	17.5%
7	強迫性障害	10 件	15.9%
8	依存症	7 件	11.1%
9	その他	4 件	6.3%
内在化障害合計		147 件	—

※割合は有効回答数 63 件に対する百分率 ※有効回答数：63 件 延べ件数：147 件

Q5. どのような二次障害が現れたか



順位	外在化障害カテゴリー	件数	割合※
1	暴言	20件	31.7%
2	反抗	19件	30.2%
〃	暴力	19件	30.2%
4	自傷	14件	22.2%
5	その他	10件	15.9%
6	家出	6件	9.5%
7	非行	2件	3.2%
外在化障害合計		90件	—

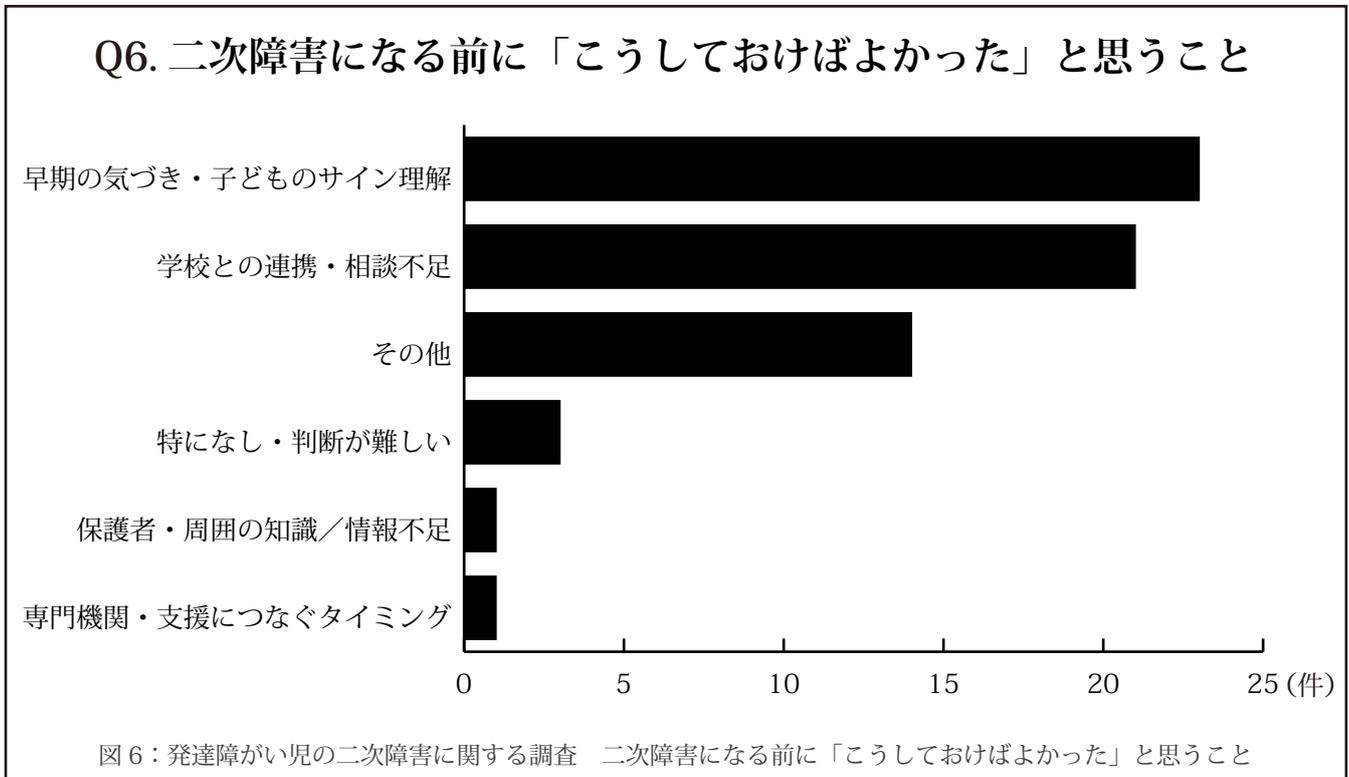
※割合は有効回答数 63 件に対する百分率 ※有効回答数：63 件 延べ件数：90 件

順位	カテゴリー	件数
1	内在化障害	147 件
2	外在化障害	90 件

二次障害の内容を内在化障害と外在化障害に分けると、内在化障害の方が多いたことがわかりました。平均すると 1 名あたり 3.7 個の二次障害が発生しており、複数の二次障害を発症しているケースが非常に多いことがわかりました。

Q6. 二次障害になる前に「こうしておけばよかった」と思うこと

回答方式：
自由記述方式



順位	カテゴリー	件数	割合※
1	早期の気づき・子どものサイン理解	23件	36.5%
2	学校との連携・相談不足	21件	33.3%
3	その他	14件	22.2%
4	特になし・判断が難しい	3件	4.8%
5	保護者・周囲の知識／情報不足	1件	1.6%
〃	専門機関・支援につなぐタイミング	1件	1.6%

※割合は有効回答数 63 件に対する百分率

二次障害を防げなかった要因として「子どもの変化への気づきの遅れ」と「学校との連携不足」が突出して多く、保護者が自責の念にかられながら振り返っている様子が多く見られました。

Q6. 二次障害になる前に「こうしておけばよかった」と思うこと

～代表的な自由記述～ ※いただいた情報を原文のままご紹介しております

<早期の気づき・子どものサイン理解>

- ・2次障害の前触れとして、登校しぶりの際に玄関でうわぁーと奇声を上げている時期がありました。その時に、自閉スペクトラム症を疑えば良かったと、もう少し早く気づいてあげれば良かったと思います。
- ・親が兄の特性に気づき対処してあげていれば妹の二次障害にも気づけたと思います。
- ・登校しぶりの時期に無理矢理学校に行かせず、休ませれば良かった。精神論、正論で責め立てることをしなければ良かった。
- ・少し変化や違和感に気付いていましたが、思春期、ただの反抗期かな？と思ってしまって対応を間違えたと思います。何度も叱責し、ぶつかりました。その頃、二次障害が起きるという知識が無かったので、早く知れていたら良かった…と思っています。

<学校との連携・相談不足>

- ・最初に不満を口にしていた時から、学校の先生とのやり取りをしっかりとすれば良かったです。
- ・学校に特性の理解をしてもらえよう働きかけたが、理解には至らず。具体的な支援方法をアドバイスしてもらえる関係機関があれば良かった。
- ・子どもの特性を事前に担任の先生に詳しく話しておけば良かった。学校側と辛くなった時の逃げ場を確認しておけば良かった。

<その他>

- ・小学校までの多動とか情報が多いが、中学校から大人に向けての情報が多くなく、講演会等参加してもあまり役に立つことがなく、今後の生の声をもっと聞きたかった。平日で発達障害の子供を持つ会の集まりに参加出来なくて、もっと参加したかった。
- ・保育園までには見られず、入学した直後から突然あらわれたため、兆候もなにもなく、気づけなかった。こうしておけばよかった、というものは無い。

<保護者・周囲の知識 / 情報不足>

- ・発達障害については早くから興味もあり多くの情報は持っていた方である。なのに、発達障害が理解されず、一般的、普通であることを強いられるとその歪みが二次障害を産んでしまう、ということを知らなかった。我が子の自閉傾向からの凸凹を個性と捉えることもできず、ずっと否定や修正をしてきたことからの娘の二次障害を自覚し、娘との関係を一から築き直しているところ。

※より詳しい体験談については、4章にて紹介しております

3章 調査結果の総括と考察

この度の「発達障がい児の二次障害に関する調査」に際し、多くの皆様より貴重なご意見をお寄せいただきましたことに、心より深く感謝申し上げます。

本調査では、発達障害のある子どもが二次障害に至るまでの経緯や、その背景にある環境要因、さらに二次障害が子ども本人に及ぼす影響について、現場の声をもとに多角的な分析を行いました。その結果、二次障害は突発的に生じるものではなく、日常生活の中で積み重なった小さな困難や不適切な関わりが、長期的に影響を及ぼしている実態が明らかとなりました。

調査結果の中で特に多く挙げられたのは、学校生活に関連する困難です。教師からの指導や関わり方、学習面でのつまずきへの支援の難しさ、友人関係における孤立感やトラブルなど、学校という集団環境の中で生じた出来事が、子どもの自己肯定感に影響を与えている様子がうかがえました。これらは、発達障害という特性そのものが直接の原因というよりも、特性と環境との間に生じたずれが十分に調整されないまま積み重なった結果であると考えられます。

なお、本調査の結果において学校環境に関する要因が多く挙げられたからといって、特定の学校や教師の対応を一方的に問題視

したり、責任を追及したりすることを目的とするものではありません。また、保護者と学校を対立する関係として捉え、分断を生じさせることを意図したものでもありません。発達障害の特性は外見からは分かりにくく、支援の難しさは保護者・教師の双方が日々直面している現実です。本調査は、誰かを責めるためではなく、同じ困難を繰り返さないために、保護者と学校が共通理解を深めるための一資料として位置づけられるべきものと考えます。

二次障害として現れる状態の多くが、不登校や対人回避、不安感や抑うつ状態といった内在化障害であった点も、本調査から得られた重要な知見です。内在化障害は外から気づかれにくく、問題行動として表面化しにくい一方で、本人の内面には強い苦痛が蓄積されている場合が少なくありません。そのため、周囲が変化に気づいた時点では、すでに状態が深刻化しているケースも多く、支援の難しさにつながっていると考えられます。

二次障害が継続する期間に着目すると、数か月で改善するケースは少数にとどまり、半年から一年以上、あるいは学齢期を通して長期化する事例が多く確認されました。一度二次障害が顕在化すると、子どもが再

び安心して社会とのつながりを取り戻すまでには、相当の時間と丁寧な支援が必要となることが示唆されます。この結果は、第1章で述べたとおり、二次障害が発生してからの対応が容易ではないことを裏付けるものであり、予防的な支援の重要性を改めて示しています。

さらに「二次障害になる前にこうしておけばよかった」と振り返る記述の多くは「子どもの変化にもっと早く気づきたかった」「苦しさを十分に理解できていなかった」「学校とより密に連携できていればよかった」といった内容でした。これらは、保護者や支援者の努力不足を示すものではなく、二次障害の兆候が非常に捉えにくいこと、また日常の忙しさの中で小さな変化が見過ごされやすい現状を反映しているものと考えられます。

第1章で述べたように、発達障害と二次障害は切り離して考えることはできません。しかし、二次障害は決して避けられない結果ではなく、適切な理解と環境調整、そして早期の支援が行われることで、その発生や重症化を防ぐことが可能となります。本調査により、二次障害の予防において重要なのは、子どもの特性そのものを矯正することではなく、日常生活の中で積み重なりやすい失敗体験や、否定的な関わりをいかに減らしていくかという視点であることが

明らかになりました。

そのためには、子どもが発している小さなサインを見逃さず、周囲の大人が立ち止まって状況を見直す姿勢が不可欠です。睡眠や食欲の変化、登校への抵抗感、感情の揺れなど、一見些細に思える変化は、子どもからの重要な SOS である可能性があります。これらを成長過程の一時的なものとして捉えるのではなく、家庭・学校・専門機関が連携しながら支援を検討していく体制づくりが求められます。

本調査を通じて得られた知見は、二次障害に苦しむ子どもやその家族を責めるためのものではありません。同じ困難を繰り返さないために、予防の視点を社会全体で共有することを目的としています。発達障害のある子どもたちが、自身の特性を抱えながらも二次的な困難に直面することなく、安心して成長できる社会を実現するために、今後も現場の声を丁寧に蓄積し、保護者と学校をつなぐため情報を発信してまいります。

4章 アンケート自由記述のご紹介

本章では、アンケート調査にご協力いただいた皆様から寄せられた貴重なご意見を、一つひとつご紹介します。

本報告書を作成するにあたり、私たちは「いただいたご意見は原則としてすべて掲載する」という方針を基本といたしました。皆様から寄せられた一つひとつの体験談こそが、本調査の根幹をなす最も価値ある情報源であると考えたためです。

しかしながら、全てをそのまま掲載することにより、いくつかの課題が生じることも事実です。まず、全く同じ趣旨のご意見が多数寄せられた場合、それらを全て掲載することがかえって論点を分かりにくくしてしまう可能性がございます。また、極めて個人的な内容を含み、個人が特定されかねないと私たちが判断した一部のご意見については、プライバシー保護の観点から掲載を差し控えるべきであると考えました。

こうした編集上の配慮から、いただいたご意見の大部分を掲載するという形をとらせていただきました。これにより、皆様から寄せられた多様な視点や論点をほぼ網羅しつつ、報告書としての読みやすさも両立できるものと考えております。

ここに紹介する一つひとつの声は、発達障害のあるお子様とそのご家族が向き合う現実であり、喜び、改善への期待、そして深い葛藤といった決して省略されてはならない「生の声」であることに間違いありません。これらの貴重なご意見を原文のままにお届けすることこそが、本調査の価値を最大限に高め、今後のさらなる研究の礎となると確信しております。

読者の皆様が、ご自身の関心に応じて多様なご意見を比較検討しやすいよう、設問ごとに回答をまとめて掲載しております。

Q4. 二次障害の原因となった出来事

・書字表出に障害を伴うタイプの学習障害で、字形の想起に困難があります。気付かれにくい障害だと思っています。

・中学生2年の時に、学年指導責任者の先生が、他の生徒と一緒にあって、あだ名をつけてバカにされ、暴力も受け、大変な心の傷を受けました。我が子でなく、何人ものお子様がと近寄ることもできず、転校するはめになりました。教育委員会がこのようなことを野放しにしているのが、現状なのとおもいます。一番難しい、中学生の教育者は、包みこむような人間力がないと無理だとおもいます。寄り添った教育が本来のあるべき姿です。純粋な子供たちが、大人の一言で、家出もする、自殺もする、など計り知れない傷を追っています。あれから、10年以上の月日がたちましたが、未だに、心の傷は消えません。このような子供を救うために、わたくしも子供と接する仕事をしています。結論をいえば、発達障害の子供は、人の痛みをわかる子供に成長します。今は、子どもも人の命をすくう一員として働いています。これも様々な人の出会いと踏み出せる環境があるかどうかです。日本がかわらなくてはならないのは、異次元の少子化対策ではなく、大人の教育そのものです。一人の行動が世界を動かす時代なので、なんとか大切な子供たちの夢ある未来をつくりあげましょう。

・育てにくさが発達障害ゆえんのものであるという自覚が母親の私になく、兄や姉と同じように育つはず、普通に正しく育てて欲しいとこちらの関わり方が間違えていた。愛着形成がうまくいかず、本人は低学年のころから辛い思いや生きづらさを抱えていたことを高校生になってから知った。

・冬季休暇明けに登校行き渋りが始まりました。当時は学童にも通っていて、時期的に寒いし疲れも見えたのかな？くらいにしか感じていなかったのです。しかし、表情がくもり、布団から出てこなくなり、行きたくないし、行かせないでの一点張り。当時私は、発達障害の知識が低く、甘えん坊の我が子をどうやって学校に行かせようかと必死でした。今思えば、子どもはすでにSOSを出していたんですね。母親の私に対して、爪を立てたり、壁をとにかく蹴っていました。そのうち死にたいという言葉もできるようになり、見知らぬ人が外を歩いているだけでも外を歩けなくなりました。しばらくして保健室登校、職員室登校なら大丈夫だと、登校時間をずらして行

Q4. 二次障害の原因となった出来事

くようになりました。上級生や友達からの冷やかしか、先生、学習に追いつかない等、いろんな事が重なって、一生懸命に乗り越えようともがいていたけれどプツッと心も切れてしまったんです。学校には行けるけれど、教室には一歩足を踏み入れられず一年間経ちました。我が子の場合にはチック症状が季節の変わり目に出るようになったり、何故自分は生まれてきたのかを気にする様子も多く、人の目を見ることも会うことも怖くなり、外に出ても誰もいないか確認したり、避けて隠れるように歩いている姿が多くありました。進級して、担任の先生も変わり、突然、教室に入れるようになりました。発達の凸凹があることが検査で発覚し、今は不得意な事には親自身も目を向けず、得意なことだけを伸ばして褒めています。どんなことにもペースを大事にして、人の辛さや痛みを分かってあげられる子になりました。同じ悩みを持つ方にも声をかけてあげられるようになりました。これからも自分のペースで生きてもらいたいと思っています。

- ・発達性読み書き障害に気付かれず、学校の授業に徐々についていけなくなりました。
- ・幼稚園の年少時、本人の特性を理解されず、ダメな行動 & 嫌がる事をする & 何度言っても繰り返す、と思われてしまったようです。発達障害の事は何となく知っていても、どう関わるのかというのがわからない先生も多く、結果叱責される事が増え、先生にも気持ちのモヤモヤをぶつけるようになりました。また、お友達間のコミュニケーションが苦手な面があり、ご迷惑をかけた事があるのももちろん事実です。ですが、そこに適切な配慮が行かず、良い行動に結びついていくわけもなく。何かあると"息子が悪い"という流れになる一方でした。子供達も正直で、息子＝いつも怒られる子(怒られていい)という場面もあり、先生もお友達にも自分がわかってもらえないことが重なり、3歳の息子は園の中では1人戦っていたのかもしれない。年中の1学期で限界が来たのか、毎日のように癩癩や他害の報告が増えてしまいました。また園から帰ってくる顔が、まったく穏やかなものではありませんでした。
- ・学校の授業がつまらない。同性の友達との話が合わない。女子特有のニュアンスが分からない。夫婦別居。ODの発症。

Q4. 二次障害の原因となった出来事

- ・ 中学校の支援級の先生が理解がなく、給食のことでうるさく、背中にたたかれたような手の跡や、腕につかまれたような手の跡がチョークでついていたり、校舎の2階から飛び降りようとしたので、普通級のみに変えてもらった。でも小学校から支援級だったので、大勢の生徒の環境に馴染めず、抜毛やアトピーが悪化し、汚いと言われ不登校になった。
- ・ 昨年1月末から登校しぶりが始まり、2月は強制的に学校に行かせていましたが、トイレでもお風呂でも泣き、腹痛頭痛も訴え出し、ある日泣き叫びました。3月はテストだけ何とか受けさせましたがそこから完全不登校引きこもりになり一年が経ちました。3月末には起立性障害も発症。何故行きたくないのか問いただすと、友達が誰も話しかけてくれずにいつも1人ぼっち。先生が校則でうるさい。授業が早すぎる等々言っていました。育てにくさがずっとあり、過去障害があるかもと先生に言われたこともあるため、カウンセラーや市の不登校専門の相談員の方に幼少期からの気になる言動を話したところ、ASDですね。と言われ腑に落ちました。実父もASDだったので重なるところが多々あったので。娘は自分が納得した事しかやらない。集団が苦手。面接で目を合わせられない。聴覚過敏。視覚過敏。触感過敏。偏食。嚥下障害。少しずつではありますが、元気になってきています。
- ・ 転校で環境が変わり連休明けから行けなくなっていった。担任の先生の理解が無く頑張っただけで遅れて行っても冷たく扱われたり教室に入れず廊下にいると他の人の迷惑と言われた。
- ・ 学校というシステムが合わないようです。クラス全員のペースに合わせて待つ時間が長い、授業の進みがゆっくり・簡単に感じるのか退屈で仕方がない、自分なりにその時間をなんとか過ごそうとしても端から注意されてしまう、学校でやっている内容に魅力を感じない、など。
- ・ 高学年になり周り自分との差を感じ始め、コミュニケーションのとり方含め、春先から中学生になる事もあり調子が悪そうな日々が続きました。本人に確認しても、(何もない。)と言い自分自身がどのような状況か分からなかったんだと今は思います。学校に行けない日もどんどん増えていきました。友達は心配してくれる子もいたのですが本人は頼ったりする事も出来なかったみたいです。長い事学校に行けてなかったのですが、本人が『今日は学校に行く』と昼から登

Q4. 二次障害の原因となった出来事

校したのですが、行って少ししたら学校から電話がかかってきました。『〇〇君シンドイみたいで、今保健室で休んでいて迎えにきて欲しいって言ってます』と言われ早急に迎えに行った所、本人の顔を見てもケロッとしていたので、これは身体の問題じゃないな。と思い、本人にどのタイミングでどの様にしんどくなり、その後どんな様子だったのかを確認しました。その時に今回が初めてではなく何回もなっている事を知りました。私自身パニック障害を抱えていますのですぐに自分と同じパニック発作ではないかと不安に思い、すぐに私と同じ心療内科に連れて行きました。診察が終わり本人は先にでももらい主治医に詳しく話を聞きました。予想通りパニック障害でした。もっと早くに気付いてあげればととても後悔した事を覚えています。

・受け入れることのできない教科担任が数人できてしまった。家族に相談することなく自分と担任だけで決めてしまった。

・成人してから発達障害が判明しました。というよりは私自身、それまで深く考えておらず、ちょっと癖のある娘という感覚でした。障害は娘が自分から自覚し、それなりの機関に相談して医療機関にかかり判断が下されたものです。娘から「自分は発達障害（アスペルガー・ADHD）」というのを聞いたとき、ショックというより、やっぱり・・・という感じでした。思い起こせば色々兆候はあったので、そのときにもっと真剣に考えてあげれば良かったのかとも思います。二次障害は成人して会社に勤めていた頃から頻繁に起こっていました。もともと頭痛持ちだったのですが、夜中に吐き気が続くほどで仕事を休むことも多かったです。製造業の職場だったので人間関係などでストレスを感じていたのかもしれませんが。その頃はまだ、発達障害だと判明する前です。その後医者にかかり、障害が判明し退職してから、障害者対応の求職案内で仕事を探し、職に就くことができました。医療センターにも定期的に通いカウンセリングを受け、薬ももらっています。今は安静しているのか以前のような頭痛はなくなった様です。

・机の上に乗ったら（いけない事したら）〇〇おじさんが来るぞ！キヤー怖い～というやり取りがあって楽しく遊んでいたが、息子の反応も薄れてきたので、先生は「ホールドマン来るぞ！」といけない事をするも体を拘束するという遊びを始めた。息子はそれが楽しくて先生の帽子を持って逃げたりしましたが、それでは遊んでくれない。すると、急に先生を叩いたり、先生のス

Q4. 二次障害の原因となった出来事

マホを持って逃げたり、先生が大事にしている鉢植えを割ったりし始めた。先生が怒るような事をすると遊んでもらえると誤学習してしまった。また、弟に対して先生の使う方言を使いながら殴る行為をし始めた。家でもスマホを窓から投げるなど、私が絶対怒るような行動が始まり、その件について何かしら言うと外に出ていっていなくなってしまうようになった。

・初めて行った放課後等デイサービスのある店舗で子供達が悪い事したら叱ってくださいと言われていましたが…平気で怒鳴りつけてました。

・父親とか仕事の関係で生活はほとんど母親と兄3人で暮してる様な生活。父親は、障害のことを未だに理解がありません。学校生活はストレスだらけで不登校。中学になり、ほとんどいけてません。先生の言葉、ガヤつく騒音、チック症こだわりを分かってもらえず、せかされパニックになる。家から外に出ると気になる事があり過ぎて辛い様です。

・オウム返しや行動の真似があり、以前より担任から注意を受けていました。特性なのでどうしようもなく、親からも家で注意するよう言われましたが、治しようがありません。先日も階段で移動中に友達に押され、それを真似して息子が押し返したそうで、息子だけ注意を受けたようです。その後も別のトラブルがあり、クラス全員の前でさらし者にされ担任に怒られたそうです。他の保護者さんから聞きましたが「他の問題児には怒り方が優しいのに、息子君には怒り方がキツイ」とお子さんが言っていたそうです。

・妹が小学生の時、男性の担任の先生からの影響で強迫性障害になり兄の事を汚いと言うようになりました。その時は我慢して妹を刺激しないようにしていましたが(当時中2)、高校生になった頃から自分は汚いんじゃないかと思ひ込むようになり不登校になりました。

・宿題のやり忘れ、英語の発表など。支援学級の先生に、プレッシャーをかけられた。

・幼稚園の年中の頃、担任の先生に、特性や本人に合った関わり方を伝えてきたつもりですが、あまり理解されていませんでした。結果、話を聞いてもらえない、わかってもらえない気持ちが

Q4. 二次障害の原因となった出来事

日に日に増した息子は、先生に反抗的な態度が強くなっていてしまいました。お友達とのコミュニケーションもやや苦手で、この時期はトラブルもより一層増えました。

・子供たちに父親は居てますが、育児、教育私一人です。登下校も私がこれまで付き添いやってきてます。生活スキルアップも毎日の生活の中で諦めず続けてます。学校生活は、理解ある先生はほぼ居なく癩癩、自傷、私にだけに他害。先生の冗談が分からず攻撃的な態度を取り小学4年と5年の時には登校停止のプリントを渡されました。私は納得いかず教育委員会へ抗議し、学校からは何も話はなく謝ることも無く、普通の生活に戻っただけでした。支援室でも1人で本を読んだり普通クラスに入れない時はローカに出され寒い中地べたでお絵描きして時間を過ごしたりを見ました。4年から汚言、暴言チック症、運動チック症、接触過敏、聴覚、視覚過敏、多動で部屋をウロウロじっと出来ません。5年になり、学校から薬を勧められ飲み始め14歳今も処方中。朝身体は動きません。不登校気味、ご褒美で行く日もあり毎朝が戦争の日々。自傷がひどいのと、私にだけ暴言暴力が強いのが毎日の生活で苦しい事です。

・療育手帳2級の女子。診断はASD。高校1年生。友人関係は良好。学校は勉強以外楽しい。普通科高校に入学したものの、徐々に勉強についていけなくなり、授業を無断でさぼったりしてますます学習意欲が低下してきた。入学時療育手帳提出。WISC検査結果提出。医師の意見書提出。支援計画の話はなかったらしい。

・自閉症で軽度知的障害もあります。小さい頃からオウム返しが治らず、相手の言った事を復唱してしまうのですが、それを担任の先生が気に入らないらしくクラス全員の前で怒り、晒し者にされるようです。怒られ過ぎてなのか、もともとそういう素質があったのかはわかりませんが、今までなかった行動の真似も出るようになり、もっと怒られる事が増え、もう学校は行きたくない。先生が嫌だというようになりました。

・やりたいこと、やらなければいけないことのバランスが取れなかったり、周りの環境や発言により自信をなくし、自己肯定感が急激に下がってしまった。

Q4. 二次障害の原因となった出来事

・小学校へ入学し、1ヶ月の行き渋り後、楽しく通うように。それ以来6年間頑張って登校していました。中学に入り友達関係や日々の課題、行事も重なり参加してしまい、不登校に。小学生の時から少し友達関係も心配なところがあり、文章を書く事も極端に苦手な先生に伝えていました。しかし、どの先生からも「大丈夫です。やれています！」その言葉を信じていたけれど、中学で不登校になりもっとちゃんと向き合えば良かったと反省。親としても「あしなさい。こうしなさい。」と口うるさかったところも反省し、その子の意思を尊重するようにしました。不登校中はぶつかることもありましたが、グッと堪えて受け入れるように努めました。かなり気持ちが落ちてしまった時期もありましたが、とにかく子どもの意思を尊重することを心掛け、サポートできる場所(衣食住と自分からやりたいと言った事へのサポート)はするようにし、会話を大切にしながら過ごしました。子どもから話しかけてくれるようになり、好きなゲームの話ばかりでしたが、それも時間の許す限り聞いていた時期もありました。グレーゾーンではありますが、二次障害をなんとか乗り越え、今は楽しく高校に通っています。

・無視をするいじめ、汚いもの扱い。先生は特性理解がなかった。頭の良い子が正しいという考え方。

・習い事を継続させる事を目標に、積み上げることの大切さに重点を置き、嫌だけど、他の皆も頑張っているし、頑張ろうね。と公文と空手に、通わせ2年余りの頃、学校にも行きたがらなくなり、家庭内での反抗態度や落ち着きがなくなり、駄々をこねる事で、周囲の家族を困らせた。

・長男が12歳のときに、軽度知的障がいと自閉スペクトラム症の診断を受けました。中学校から国語と数学は別クラスになり、学年で1人だけの移動だったのでクラスメイトには保健室に行っていると伝えていたようです。そこを隠してほしくなく、堂々としてほしいと私が思ったことから、担任の先生に支援学級に行っていることをみんなに伝えてもらいました。そこからみんなが長男にたいしてどのように接したらいいかわからなくなったようで、それを敏感に察知してしまった長男が学校へ行かなくなってしまいました。それにより今まで以上に勉強が遅れてしまいました。そのときのことはかなり後悔しております。

Q4. 二次障害の原因となった出来事

- ・母親が受けたハラルハラスメントの恐怖をそばにいて同じように感じ取ってしまったこと。これが潜在的にずっとあったこと。小2から小3まで不登校だったがその後登校できるようになったが、中1でいじめをきっかけに再び2次障害再発となる。
- ・友人が私物を置いた。それを見ていたうちの子は、その私物を触った。友人はそれに激怒して、うちの子を叩いた。その友人の特性は、私物を触られると激昂する。そんなこと、親である私たちは知らなかったし、そう言う友人と近くにいることの怖さを知った。もちろん、子ども本人がとても怖かったと思う。また、その友人も特性ゆえ、その衝動は抑えられない現実がある。何が良くて何が悪いかわからない。はっきりしているのは、うちの子はうちの子で、これから、よりしっかりサポートしていく。
- ・夫が非協力的でモラハラDVをする人で、夫婦不仲になり、私も、一人で育児をしていて孤独で寝不足で、子どもは育てにくくて、癩癩や泣くことが多く、精神的、肉体的に追い詰められて、子どもに対して怒りすぎた。中学校で、周りの生徒が初対面の人が多く、変わった子という目で見られた。先生が、感覚の過敏さを理解しておらず、水泳の授業を拒否した息子に、理由を尋ねて、「プールに虫が浮いてるから」と答えた息子に、「みんな少々嫌なことがあっても、我慢してやってるんだぞ」と、一般論を押し付けた。筆記が苦手なため、ノートをとるのに、スピード、量ともに追い付けなかった。手先が不器用なため、美術や技術家庭科などで制作する時、作業がみんなより遅れた。
- ・幼稚園の時、友達からの嫌がらせが原因で、先生との信頼関係がなくなり、幼稚園は安心できない場所になり、家族以外の人と会話をしなくなった。
- ・小5の時から現在中2で不登校4年目。小5でASD診断。小学生の頃は学校行事に参加したり、たまに学校へ行ったりがありましたが、中学生になってからはほぼ登校せず。性別違和を訴えており中学は性別とは違う制服を購入。入学時に学校と本人の希望を話し合い個人名は伏せて性別とは違う制服を着ている子がいると説明してもらったが、結局ほぼ登校できず。

Q4. 二次障害の原因となった出来事

- ・ 学校生活の全てにおいて苦痛だったんだと思う。学校に行きたくない息子を無理やり連れていき辛い思いをさせてしまった。宿題も無理やりやらせてしまって怒ってしまうことがあった。
- ・ 小学3年生の夏休み明け、席が嫌いな男の子のとなりになって行き渋りが始まり、その間もいじめを受けていた娘は1ヶ月後には全く行けなくなりました。担任や学校への対応を求めましたが、対応が遅すぎました。次第に不眠、家から出れなくなり、引きこもるようになりました。
- ・ 自分自身の特性をある程度理解しており、友達のなかで浮かないように、無理に相手に合わせようとして、疲弊していた。本人はルールが絶対で臨機応変が難しいので、掃除をサボる子や突然の変更などの学校生活で、自分がわからなくなったと。
- ・ 全てに対して、人のせいにして逃げようとしている。お母さんのせいして、本質から逃げているから辛くなっている。自分の勝手な解釈で進んでおり、人の話はシャットアウトしている。お母さんの気持ちを試している。
- ・ 宿泊学習、担任からの暴言が許せず、2度といかないと不登校になりました。
- ・ 授業中に落ち着かないので、お家でも叱って下さいと担任に言われた。子供に何度も注意し、同時に担任に対しての不信感を家で子供の前でも話してしまった。
- ・ ことばの遅れがありうまく伝えられないことを担任の先生に伝えていたのですが、トラブルが当たった際にうまく説明できず黙っていたら、廊下に放置され、その後他の児童と体育館に行っでしまい置き去りにされてしまいました。

Q5. どのような二次障害が現れたか

- ・授業がない日は登校できたりできましたが、今では全く登校していません。学校へ車で送り、校舎にはいるところで壁に頭を何度も打ち付けているところを、その場に居合わせたクラスのお母さんが止めてくださいました(その方は発達支援してる方でした)私も出発した車から見えておりましたのですぐに戻り、その日から学校はお休みしています。
- ・不安定になると、咳ちっくが出てしまう。また、薬でコントロールはできているものの、薬の影響かわかりませんが、爪をかんでしまいます。何とか自分で落ち着かせようとして無意識な行動です。
- ・特に家族に対して顔を合わさないようちがう方向をみていて、こちらが話しかけても緘黙状態を貫いていました。
- ・家庭内で兄に嫌なこと(鼻糞をつける、人の部屋に勝手に入り物を漁るなど)を毎日されることで行動範囲をアルコールで消毒して周るようになり、母親の介助なしでは生活できなくなり、通院するまでに至り薬を処方されていた。
- ・夏休み前から、少しずつ不満を口にしていたので、励ましつつ登校させていました。夏休みに入ってから、何もかもに意欲が持てなくなり、習い事のサッカークラブもやめ、宿題もほとんど手をつけられませんでした。夏休み明け、学校には行きたくないとなり、不登校がはじまりました。
- ・高校進学のため中3で診断を取った。障害の診断がつきうまくいかなかったことが自分のせいではなかったと安堵もし、親の方も子育てのやり直しのように関わり方を改めた。無理しないことを認めると高校でつまづいてしまい、気付いた時には自殺願望と自傷行為が始まっていた。自己肯定感も下がり昼夜逆転、うつ状態にもなるようになった。
- ・小3後半から心がモヤモヤし何度トイレに行っても尿意が消えずバスや登校が難しくなってきました4年になり気持ちで頑張っていました。心が思うように理解できず癩癩と気の落ち込み

Q5. どのような二次障害が現れたか

で不登校になりました児童精神科が知能検査と診察を受けて ASD と軽度知的障害による二次障害と 3 回目で診断されました。

- ・起立性調節障害となり、頭痛、腹痛、関節痛、目眩、吐き気、睡眠障害（昼夜逆転等）になり、お風呂は 3 日に一度、外出は月に 1 度（数十分～数時間）となり、コンビニや宅急便の人でさえも怖いと言い、家族以外の人間が怖い。過敏症で太陽が眩しい、大きい音や特定の音が辛い、食感が苦手な物が多く、飲み込みが上手く出来ない等あり。
- ・発達性読み書き障害に気付かれず、学校に疲れてしまうことが増えて、学校を休みがちになりました。
- ・お友達とのやり取りで何かあると、手が出やすくなりました。1 番ひどい時は、注意してくれた先生に対して、癩癩 & パニックで突進してしまったり、噛みつこうとしました。
- ・日課表通りに授業が行われない事で、毎日何をすることが分からず不安感が増幅。パニックになる。周囲から天才だと思われているため、授業中に質問出来ないから学校に行かなくなった。
- ・中学校の 3 年が特にひどく、不登校、包丁を向けてくる、イライラ、妹とケンカし家を飛び出すことがほぼ毎日、住んでる団地の 11 階にエレベーターで向かう、道路に飛び出そうとする、学校に行きたくないから近所の人に隠れたり給食当番で回す白衣袋を投げ入れたり、抜毛、暴力暴言反抗は祖父母と私にほぼ毎日、いつ警察沙汰になるかという状況だった。
- ・起立性調節障害から、頭痛、腹痛、関節が痛い、立ちくらみ、目眩、睡眠障害、昼夜逆転となりました。どう思われているか考えてしまう、質問したら馬鹿だと思われる等、人の目を気にするようになり、コンビニのレジの人や宅急便の人が怖い等の社会性不安障害。物が飲み込み辛いと言い出したり、食事も殆ど摂らない、お風呂も入らない等ありました。完全不登校で一年経ち、今は上記の全てがだいぶ緩和されてきています。

Q5. どのような二次障害が現れたか

- ・学校に一人で行けなくなり私と一緒に行って一緒に帰っていたがどうしても教室が嫌だと言うので支援学級にいるようになった。家にいても弟に当たるようになり怪我をさせることもあった。
- ・泣いて、叫んで、クラス外に逃げ出して、人のものを壊してしまったり、暴力を奮ってしまったりと荒れていた。日々、くだらない人生は終わりにしたい、死にたいと言って、自分の頭を打ち付けるなどしていた。
- ・「今日で学校は辞めます！」と宣言して行かなくなってしまった。ガラスや家具に八つ当たりをして壊す。家族を叩いたり（パンチ）蹴ったりする。ボクシングの試合の後のようになっていました。
- ・吐き気がひどい頭痛。夜中に何度も起きて吐いていました。
- ・学校で叱られ家庭でも叱られ療育の現場でも叱られ、心が休まる場所もなく抵抗することを覚え反論攻防、クレーム的オバサン風に反論する。怒鳴り散らかす事で自分を守るために身に着けた武器なのかも知れませんね。
- ・弟への暴力、注意されると家を出ていく。
- ・チック症トウレット症頭、身体叩く自傷、音や言葉に無意識に反応して暴言を連呼。無意識にウロウロと歩き回り自分の世界に入り独り言や歌やセリフを唱えています。
- ・学校に行きたくない！と登校拒否するようになりました。前は早起きして楽しく登校していましたが、今はまったく起きようとせず「学校行かない。楽しくない。」と言って行こうとしません。
- ・不登校は高校1年からで、通信制高校に転校しました。登校はできずスクーリングのみで卒業。その頃から手洗いがひどくなり、いろいろなものを汚いと言うようになりました。手洗いが上手くいかず物に当たることもありました。病院にかかりましたがよくなりず、転院して今通院して

Q5. どのような二次障害が現れたか

いますが、改善されません。

・自分の想いをうまく説明できない、わかってもらえないストレスで、癇癪が頻繁に起きました。主に奇声をあげたり、泣き喚いたり、あとは先生に突進したりしてました。ひどい時は噛み癖も出ました。その時期は、心が尖っていて、少しの事でも苛立っていました。園生活を楽しく過ごすことよりも、おさまらない気持ちをどうしたらよいのか、本人も訳がわからないし、先生も困り果ててました。癇癪時は、パニック気味にもなっていたので、先生やお友達に怪我をさせやしないか、心配でした。

・だんだん起きれなくなり笑うことが極端に減って、イヤホンをしてうつむく事が増えた。別人のように目付きがきつく暴言をはくように。奇声をはったり頭を叩いたり…。荒れる前にはめまい、ふらつき、胸のつまり、動悸などがあったが前兆だと気付かず防ぐ事ができなかった。

・周りに理解をしてもらえないと言う事、大人達の矛盾で、物を盗む、暴れる、警察にお世話になる、結果、もう自分は、クズだと言い、最後は、車の中で1人で亡くなりました。

・体が重く起き上がれなくなり、無気力で食欲不振に。食べられない姿をみるのはとても辛かったです。

・怖くて特に朝、登校時になると身体の痛みがで始める。起きられない。外に出られなくなり、友達をみると隠れる。

・対人恐怖は初対面のひとが苦手です。とくに同級生や歳が同じ年だと拒否反応が出てしまいます。

・小学生では発作的に襲ってくる恐怖と不登校。中学生～はイジメをきっかけに小学生の頃からあったようなのですが起立性調節障害が表面化し不登校に。そこで ASD と診断され感覚過敏に悩み自己肯定感が下がり鬱的症状、SNS で知り合った人と付き合ったり (良い関係とは言い難い)、

Q5. どのような二次障害が現れたか

リストカット、オーバードーズ(あとで知りました)に至る。

・毎日学校でも家でも、ちょっとしたことや、何もなくても泣く。昔のトラウマの記憶までよみがえり繰り返しそのことを呟く。

・幼稚園から不登校。母子分離不安になった。1人になるのを嫌がった。慣れていない場所や病院に連れていくのも大変だった。

・気持ちが不安定で常にイライラしている。ゲーム、携帯に依存し、中2夏休みからは昼夜逆転。

・ワーキングメモリが他の数値と比べ低い(とは言え100↑)為、早とちりして問題を解いてしまう失敗が多い。興味の先が友人とも食い違いがあり、同年代とは会話が合わず歳上の人との会話の方が合う為学校がつまらない様子。頭の回転が早い為会話に捲し立てる様な速さで進む事が多く、会話をする方は疲れてしまう。失敗が多い事、友人と上手くいかない事、授業が簡単でつまらない事も有り『自分は嫌われている』『周囲が敵視している』と思い込む様になってしまった。嘘は自分を認めて欲しいと言うシグナルだったと思われる。対人恐怖に近い症状が出てしまっていて内服中。支援が早急に必要だが、ADHD・ASD(聴覚過敏等)向けの対応だけでは足りない。しかし、ギフテッド児への支援は無い。

・話しかけてくる友達や先生に対して黙れ!などの暴言を吐く。依存はYouTubeが流れていないといられない。1日中つけっぱなし。部屋にいるときは必ずドアが閉まっていないと気がすまない。嫌なことを言われると叩く。

・うつ症状は次第に悪化し、児童精神科を受診学校に行きたいけど行けない葛藤を繰り返し、希死念慮が出てきました。自傷行為を繰り返してます。小5でASDの診断がありました。

・不眠、幻覚、幻聴、生きてる意味がわからないと言うようになりました。

Q5. どのような二次障害が現れたか

- ・テンションのアップダウンが激しく、夜は泣き叫び、翌日への不安が強かった。学校を休むにしても「〇〇しなければいけないから」と強迫観念もあり、自分では決められず親の意見を聞くとして、「親が決めたこと、私のせいではない」と責任転嫁して暴言を吐いていた。
- ・最初は怖い夢を見る事で、次の日授業中に寝てしまったりお腹痛いと言い出しました。
- ・保健室登校になった。小児神経科で診察、スクールカウンセラーのアドバイスで、担任に教室にいったことを褒めるようにしてもらおうと教室にいけるようになったが、授業中落ち着いて座れなくなり、友達に殴られると勘違いして、逆に殴ってしまったり、孤立した。音に敏感になり、教室のロッカーに閉じこもったり、全校集会に参加できなくなった。
- ・我慢しなければならぬ局面でそれができず、自分自身にも腹を立てているようでしたが、死ぬ、クズなどの暴言、思い通りにならないと物を投げるなどがありました。
- ・嫌なことやストレスを感じると髪の毛を抜いたり無意識に腕を擦って火傷のようになることが多々あり心療内科を受診しました。その後対人恐怖症なりマスクをはずせなくなり外に出るのを拒み引きこもりぎみになりました。
- ・本人は、障害のため、正規に昇格できないと考えているため、恋愛、結婚等含め将来に希望が持てないと諦めており、唯一承認欲求が満たされるのがオンラインゲームで長時間のため、寝不足のまま仕事に出かけゲームが上手くいかない時は、ゲームさえ出来ない駄目人間だと落ち込み鬱状態になります。
- ・切り替えも出来ず、活動に入り込めずひたすらブロックであそびます。担任が声かけするが全く拒否、逆ギレになり、側にいる児に当たり散らす姿が増えてきています。わざとロッカーに向かって体当たり、保育士にも体当たり、自分自身止められなくなってきました。遅番に移動する時も片付けが出来ず、周りの児が移動しても平気！見通しも持ちづらくなりました。

Q6. 二次障害になる前に「こうしておけばよかった」と思うこと

- ・2次障害の前触れとして、登校しぶりの際に玄関でうわぁーと奇声を上げている時期がありました。その時に、自閉スペクトラム症を疑えば良かったと、もう少し早く気づいてあげれば良かったと思います。
- ・どのような二次障害が現れるかわからなかったので、こうしておけば良かったというのはありません。
- ・彼女の苦しみに早く気づいてあげられればよかった。
- ・親が兄の特性に気づき対処してあげていれば妹の二次障害にも気づけたと思います。
- ・最初に不満を口にしていた時から、学校の先生とのやり取りをしっかりとすればよかったです。
- ・もっと早く STRAW など発達性読み書き障害のスクリーニング検査を受け、学習障害に気づき、学校に適切な学習方法を提案出来ていればと思いました。不安に感じたときに個別教育支援計画を作成して引き継ぎもしていただければもっと早く気づくことができたのではと思いました。
- ・無理に学校へ絶対に行かせないこと。先生をもっと早く、訴えれば良かった。絶対的に子供は、学校では弱い立場なので、常に日常の出来事を会話すべきだった。子供が先生を評価する制度は、必要です。アンケート調査でも良いと思います。只、保護者会がやらないと改ざんの恐れあります。
- ・発達障害については早くから興味もあり多くの情報は持っていた方である。なのに、発達障害が理解されず、一般的、普通であることを強いられるとその歪みが二次障害を産んでしまう、ということを私が知らなかった。我が子の自閉傾向からの凸凹を個性と捉えることもできず、ずっと否定や修正をしてきたことからの娘の二次障害を自覚し、娘との関係を一から築き直しているところ。

Q6. 二次障害になる前に「こうしておけばよかった」と思うこと

- ・全てを受け止めて何にも言わずに、本人のしたいようにただ見守る事だけすれば良かったです。
- ・本人が心の病院に行きたいと言ってわかりましたもっと早く気がついてやる事ができたらよかったですかなと思います。
- ・登校しぶりの時期に無理矢理学校に行かせず、休ませれば良かった。精神論、正論で責め立てることをしなければ良かった。
- ・こうした先進的な自治体の事例や国立特別支援教育総合研究所の支援事例データベースなど、具体的な取り組みにもっと早く繋がりがかったと思いました。こうしている間も、障害に気付かれず必要な支援の機会を損失し続けている子ども達に、支援が届けばいいなと思います。
- ・親自身も子供の特性をしっかりと把握しきれてなく、先生への説明も不十分でした。また(他害だったのもあり)、先生から言われては謝るのみとなってしまったのも反省です。息子のためにどう対応していくか、が二の次となっていました。状況を把握し、どう向き合っていこうか考えようにも、先生からだけの説明だと足りず、息子は何に困ってそのような行動になっているのか知りたかったので、付き添いで見学させてもらおうと、なるほど！という発見がたくさんありました。良くない行動には全て理由があり、また息子が何が苦手なのかが、ものすごくわかりました。事前のアプローチや、成功体験を積ませる事で、かなり軽減。また、どうしても難しい""こだわり""や、""気持ちの切り替え""""折り合いのつけかた""も、いくつか方法を試して頂いて、先生も少しずつ息子の取説を掴んでくれています。配慮や方法については、自らも調べてましたが、発達支援教室の先生と一緒に作戦を練ってもらい、考えたのが大きいです。プロから言語化して頂くとわかりやすく、説得力が増しました。
- ・学校に特性の理解をしてもらえるよう働きかけたが、理解には至らず。具体的な支援方法をアドバイスしてもらえる関係機関があれば良かった。
- ・小学校までの多動とか情報が多いが、中学校から大人に向けての情報あまりなく、講演会等

Q6. 二次障害になる前に「こうしておけばよかった」と思うこと

参加してもあまり役に立つことがなく、今後の生の声をもっと聞きたかった。平日で発達障害の子供を持つ会の集まりに参加出来なくて、もっと参加したかった。

- ・子どもの特性を事前に担任の先生に詳しく話しておけば良かった。学校側と辛くなった時の逃げ場を確認しておけば良かった。
- ・コミュニケーションの取り方や、自己肯定感を伸ばしてあげること、どのような障害をもっているか早く伝えていたらよかったと思ったことです。
- ・中学校入学前に中学校の生活を調べ伝えたり体験させて、『中学校へ行きたい！』という本人の希望を確認するべきだった。教務主任、学年主任等の先生方と話す機会を頻繁にもつべきだった。
- ・私が早い段階に注意をしておけば良かったなと感じています。障がい者の子供達です。可愛ながら導いてやれば上手くいくと思います。
- ・発語が少なく、人との会話がないうち、先生も含め人との会話は脅し文句などはナシで前向きな会話が必要。
- ・2歳から、いろんな問題を施設の集まりや区役所の方に相談してわたしなりにトレーニングはしてきたつもりで、本人も凄く成長して出来ることも増えて私は後悔などはありません。思春期は大変だろうなと覚悟はしてましたので今は踏ん張りどころだと思い諦めないで子供たちと乗り越えたいです。
- ・軽度知的障害もあり、自分の気持ちをうまく言葉に出して周りに伝える事ができません。先生から注意された事をそのまま真に受けて息子を叱りましたが、もう少し「何かサインを出していたのかもしれない」と深く考えれば良かったと反省しています。

Q6. 二次障害になる前に「こうしておけばよかった」と思うこと

- ・本人に全てを任せて見守ればよかったと反省しています。動かそうと焦って色々と提案し振り回したことがありました。
- ・クラスが楽しいのと支援の先生が苦手で行きたがらず、ずっと普通学級でした。学習面などを考えたら、中学の初めから支援学級を利用するべきだったと思います。
- ・先生からの報告が、【○○できなかった】【○○してしまった】だけで、息子がどうしてそうしてしまったか、どう対応してもらえたのかなどの前後の状況がわからず、私もなす術がありませんでした。でも、もっと踏み込んで聞いておくべきでした。また、先生の説明が不十分ならば、幼児期のうちは(出来るならば)園に入って見せてもらおうと良いかと思います。まわりに自分のことを理解されない場にいる事ほど辛い事はありません。小さな子供が1人で頑張っていたのかと思うと、今も涙が出ます。また、こちら側からも、もっと具体的なサポートの仕方を伝える努力も必要だったなと思っています。
- ・後悔してることはないです。今も小学生の頃を振り返りもう一度あの頃からのやり直しでも良いなと思って諦めず頑張ってます。学校生活の中身は、私にはどうしようもないので、無理に登校はさせてません。学校の先生も仕事だけしてると思うので国が教育委員会を変えないことには、この子達が二次障害が消える事は無いと思います。
- ・どうしても発達障害児なので周りに迷惑をかけるという負い目があるので、何か言われると「すみませんすみません」と謝って下手に出てしまっていました。もう少し担任へ理解する事を求めておけば良かったと思いました。もう少しこちらが要望を出して伝えれば否定的に怒るのではなく、肯定的な言い方で注意を促してもらったりしてもらえたのではないかとと思いました。
- ・少し変化や違和感に気付いていましたが、思春期、ただの反抗期かな?とあってしまって対応を間違えたと思います。何度も叱責し、ぶつかりました。その頃、二次障害が起きるという知識が無かったので、早く知れていたら良かった…と思っています。

Q6. 二次障害になる前に「こうしておけばよかった」と思うこと

- ・私が周りに振り回されてしまったと思いました。それじゃダメとか、ろくな大人にならないと言われてきましたがもっと早く知識を身につけて、対応すれば良かったです。
- ・親と子の関係になりすぎていたなど反省。子どもも1人の人間。人と人として接することができていたらと思います。子どもに限らず、どんな人に対してもそうでありたいです。この経験を通して、子どもから教わりました。
- ・コミュニケーションの取り方、相手の気持ちを汲み取る手段を伝えておけばよかった。
- ・小学生になってから宿題への取り組みに、他の兄弟よりも手がかかる事が気になって、スクールカウンセラーや、相談施設を訪ねたりしてみたが、学校の授業に全くついていけない様子でもなかったし、見守る生活をしてきた。他の子が当たり前になす事が本人にとっては、ハードルが高い事に敏感に気付いてあげられたら良かった。学校でも着席して授業に参加できる事などから、通常級の枠組みでの学習が続いている。相談施設と、学校の見解の差に、悩んだりもしてきたが、次年度に向けて少人数クラスでの学習も検討してもらえるようになった。積極的に相談施設に関わりを持って、子供への理解を深めて来られた事は良かった、と思っている。
- ・もっと本人と話したり、夫と真剣に話して意見交換をすれば良かったと後悔している。
- ・学校の様子、特には、関わるともだちの特性をもっと聞いておけば未然に防げた可能性はあるが、正直、子どもに関わる友人ひとりひとりの特性を、ある程度情報把握するのは不可能なので、難しいところです。
- ・小5で不登校になってからスクールカウンセラーの方に勧めていただいて病院を受診し、ASDと診断されました。2歳くらいの時に難しい言葉を使ったり、幼稚園くらいの時に自分の話したいことがあると止まらなくなる、独り言が多いなどがあり、当時のアスペルガー症候群を疑いましたが、集団生活も問題なくできており、先生や市の検診からの指摘もなかったので特に何も対策していませんでした。ただ、どこかでなんでこの子はこんな感じなんだろう？とっていて、

Q6. 二次障害になる前に「こうしておけばよかった」と思うこと

そこでもう一步踏み込んで対策していればよかったかなと思います。

- ・もっと成功体験を積み重ねてあげれば良かった。もう少し、最後まで文を読む事の原因や意味を考えられる様に教え込んであげれば良かった。
- ・タブレット、ゲームに関してしっかりルールを作っておくべきだった。学校に無理やり連れていかなければ良かった。こうなる前に学校以外の場所へ居場所を作っておけば良かった。小学校入学を支援級にしておけば良かった。
- ・不登校になる前は、何の心配もいらない位、できる子でした。勉強も習い事も頑張っていました。お友達ともよく遊んでました。不登校になって発覚したのですが、問題となった子の嫌がらせは1年からあったようで、親の私は全く知りませんでした。もっともっと話を聞いていれれば感じてます。
- ・毎日学校での話は聞いていたが、多弁で回りくどいため内容は半分くらいしか入っていませんでした。しっかり話を聞いて、受け止め、共感する姿勢が大事だったと反省している。
- ・しっかり、話を聞いてあげれば良かった。次男に対して本気で付き合う事に私も逃げていた。
- ・もっと普段から本人と向き合う時間をつくれれば良かった、困り感に敏感になっていれれば良かった。
- ・幼稚園の時も友達とのトラブルがあり、怒ると食べられなくなったりとあって内科受診はしたが、発達の問題とはわからず。小1の夏に担任からの紹介で児童相談所に行ったが、アドバイスも特になく、もっと早く小児神経科の診断をもらって対処していれば良かった。6歳下の娘は早いうちから、同じ小児神経科で診察、検査やリハビリを受け、スクールカウンセラーや支援学校の教育相談を利用し、学校側に配慮してもらい、自分もペアレント講習などで対処方法を勉強したので、大きなトラブルは避けられている。娘の時の方が幼児健診で発達検査やリハビリなど

Q6. 二次障害になる前に「こうしておけばよかった」と思うこと

しっかり勧められ、支援制度が整っていたが、息子の時は特に指摘されたり、アドバイスがもらえなかった。

・本人なりのクールダウン、ストレスの発散法を早く見つける、何に困り、どういう関わり方をすればいいのかを一緒に考えるなど。実際はいっぱいいっぱいではなかなかできない。

・学校側には担任決定時に面談をし、配慮を受けられるよう説明をしてきたにも関わらず二次障害を防ぐことができませんでした。いろんな機関に相談していましたが周りから見たら普通の子かわらないので防ぎようがなかったのかと今となっては思います。

・中学校の環境が悪くカウンセリングなど心のケアをしながら登校していましたが、コロナが追い打ちをかけ悪化してしまいました。

・もっと早く担任の対応に気づくべきだった。

・息子が子供の時代は、発達障害に関する情報が全くありませんでした。もし、今回の学びのテキストなどがあれば自分で物事を考え解決する体験を積み重ね自信に繋がられたかも知れません。

・字が綺麗だねと周りからも私たち親も褒めていたので、それが結果的に良くなかったのかなと思います。けれど、本人も家族も苦しかったあの状況で褒めるところがそこぐらいしか思いつかなかったので、もっと関わる大人が、褒める余裕や、褒める状況を作ってあげれば良かったなと思います。

・不登校になってからスクールカウンセラーに相談するようになりましたが、体調が悪くなった初めの頃に、もっと早く相談すればよかったと思いました。

・園長先生と話し合っ、今必要な支援が必要だと相談したいのですが、担任ではない所で私は

Q6. 二次障害になる前に「こうしておけばよかった」と思うこと

辛いです。絶対に思いを受け入れて話を聞く事で児は切り替えができるのですが、難しい立場でモヤモヤしている現状です。

- ・もう少し早くに子供の心の安全を考えていたら良かったのかなど。



一般社団法人

人間力認定協会